算数担当が、算数を教えつつ、いろいろなことを考えてみました。 π=3.141592653… **№8：「ミス」を考えてみた**	令和7年5月15日 墨田区立柳島小学校 校長　　近藤　幸弘 柳島小学校算数担当

前号にミスがありました。お詫びとともに訂正いたします。

下の場面を式に表しましょう。 ①：1.2L のお茶を x L 飲んだ時の残りの量　→ 1.2 × x（L）正しくは 1.2 － x（L）

本校のある教員から指摘されました。何度も読み直したはずだったのですが、やってしまいました。申し訳ありませんでした。

「ミス」について考えてみました。

私は昔からいわゆる「ケアレスミス」が多いです。空いた時間で高校数学を学び直していますが、問題を解いていても間違えることが多いです。

間違えたときは、必ず誤答を分析するようにしてします。「まるで分かっていない」という誤答はほとんどないです。ケアレスミスの代表格である「計算ミス」も、私はあまりないです。

私のミスは、「文字・記号の書き間違え」が大部分です。「ここまで正しく値を１と求めているのに、７と書いて、あとは全て間違えている…」「ここは上の式と同様にかけ算をすればいいのに、『＋』と書き間違えている…」こういう「ケアレスミス」が実に多いです。どんなに気を付けていても、わずかに気が抜ける時があり、その隙をつかれてミスをする…こんな表現が合っています。

昔はそんな自分が嫌で嫌でたまりませんでしたが、時は流れ、今では「自分はこういうところがある」と自覚するようになりました。人間にミスは必ずある。だから、それを自覚して、書いてある文字・思考、一切気を抜かずに問題に取り組む。誤答は必ず分析する。そして自分のミスの種類を分析する…特に高校数学の学び直しを始めてから、自分にはどんなミスが多いか理解できました。確信したことは、**「自分は、ミスをなくすことはできないようだ。しかし、自分のミスの仕方をわかっていれば、減らすことはできる」**ということです。

しかし、前号でやってしまいました。その時私は、「中学になるとかけ算記号を省略して $1.2x$ と書くようになる。」と考えていたのだと思います…といっても、言い訳にしか聞こえないかもしれません。重ねて申し訳ありませんでした。

問題です。授業でこのようなケアレスミスをしたとき、私はどのように切り返しているでしょうか（私の算数授業を体験したことのあるお子さんなら、覚えているかもしれません）。